



助けられ大賞

『一言で開く心の扉』

浅田実可 （広島県広島市）

私は世間でいう視覚障害者です。私の知る限り大抵の人は、障害という言葉に対してマイナスのイメージを少なからず持っているように思います。しかし私自身は、目が見えにくいということは自分の個性だと思っています。それは私に限られたことではなく、似たような立場にある方はそう感じていると思います。

私は今、大学に通っています。今では特に不自由なことはありません。しかし、入学したばかりのころは違いました。

入学してすぐのころ、新しい学校や友達になかなかたれることができませんでした。そのこともあり、私は困っていても友達に「助けて」と言えませんでした。その間、どうしたらいいのかわからなくてずっと悩んでいました。

友達には私の目が見えにくいということは話していたのですが、詳しいことはあまり話していませんでした。だ

から友達は、助けが必要なのか、必要なら何をしたらいいか、ということがわかっていませんでした。

私は困り果ててしまい、やっとの思いで友達に言いました。「みんなにお願いしたいことがあるんだ」と。私がお願いしたことは、一番前の席に座ってもらうことと、ノートを見せてもらうことです。私がお願いした後、みんなは私の頼みを快く受け入れてくれました。それ以降、みんなは当然のように私の頼みを実行してくれています。

この出来事を通して、私は人の優しさと暖かさを改めて実感しました。みんなに感謝の気持ちをうまく伝えられていませんが、私はみんなに助けられ支えられていると思いました。そして、もっと早くに言っていたら良かったのにと思っています。

最近のことを考えてみると、みんなが助けてくれるということがだんだん当たり前のことになっているように思います。それは私にとっては良いことなのかもしれませんが、助けてもらっているという感謝の気持ちを忘れてはいけないと思います。助けてもらえることは当然ではなく、自ら「助けて」ということ、そしてその言葉に答えてくれる友達の存在があって初めてできることだと忘れてはいけないのだと思います。

私は今まで一部の友達にばかり助けてもらってきました。しかし、今はもっとたくさんの友達に障害も含めて私のことを理解してもらえるようにがんばっています。

私がそう考えるようになったきっかけは、ある友達から聞いた言葉です。それは、「クラスの人が、あなたのことを助けることができたらいいのに、って話してたよ」という言葉です。

その言葉を聞いて私はとても驚きました。それは、クラスのみんなが私のことを気にかけてくれているなんて夢にも思わなかったからです。友達に詳しく話を聞いてみると今まで私が気付かなかった周りの人々の暖かい眼差しを知ることが出来ました。

どうやらみんなは、私のことを助けて、もっと障害等について知りたいという気持ちをもっているようです。しかし、どう声をかけたらいいのか、障害のことを口にしたら気を悪くするのではないか、私の周りにはいつも誰かがいるから話かけにくいという理由で話しかけられなかったみたいです。

「助けて欲しい」と言うこと以上に「何か力になれることがありますか？」と言うことは難しいので、私は積極的にクラスのみんなに声をかけられるようになりたいです。

私が今大学で楽しく過ごせているのは、先生方の配慮もありますが、何よりもすぐそばで私を支えてくれる友達のおかげだと思います。今後私は知り合いのいない所に行くこともあると思いますが、知らない人に対してでも「助けてください」と言う力をつけていきたいです。そして助けてもらった相手に「ありがとう」と気持ちを言葉で伝えら

れるようになりたいです。また助けられるだけではなく困っている人を見つけたら「何か力になれることがありますか？」と言えるようになりたいです。私は沢山の人に支えられています。だからこそ身近な助け合いの輪をもっと広めていくきっかけになれば良いと思います。

